

「人」一筋に四半世紀 業界と共に歩んだ25年間

採用支援を中心にパチンコ業界をサポートする株式会社パック・エックス(東京都港区、井手誠三代表取締役社長)が今年2月、創立25周年を迎えた。これまでの歩みや今後の展望について、井手社長に聞いた。



株式会社パック・エックス 代表取締役

井手誠三

25周年を迎えられて、今のお気持ちはどうですか？

これまで25年間も私どもとお付き合い下さり、育てていただきましたパチンコホール様、そして遊技機メーカー様、関連業者様、多くの方々にご支援をしております。皆様からのご支援がなければ25年も会社は続いてきませんでした。まずは何よりも先に感謝を申し上げます。

人事担当者と一緒に採用活動を展開

パチンコ業界の採用支援を始めた経緯は何だったのでしょうか。

当初はパチンコ業界に特化して事業をやるうとは思っていませんでした。独立する以前、私はリクルートという会社に勤めていたのですが、リクルートをはじめとする大手の求人メディアは当時、求人募集広告を出すだけで人が採れなければ、また広告を出しましょうというビジネスモデルでした。そうすると、パチンコ業界に限らず、ベンチャー企業などの知名度の低い会社、人気の業種ではない会社は募集をかけてもなかなか人が採れないわけです。そこで我々は大手の求人企業にはできないような、より細やかなサポートを心掛け、人事担当の方と一緒に採用活動に取り組んでいきました。

その中で、パチンコ業界で最初にお取引をいただいたのがマルハン様でし

ホールと人材を結び仕掛けを作っていく

今は大変な採用難です。新卒も中途もパート・アルバイトも採れないと言われています。

質も数も現場の人材が足りないというお声をたくさんホール様からいただいています。我々もより多くの人に業界を知ってもらい、ホール様と人材をつなげる努力を続けています。すでにネットではパチンコホールの仕事と親和性の高い方々への戦略的なアプローチを行い、対象者を圧倒的に集められています。より多くの人材をご紹介します。今いる社員を辞めさせない工夫も必要になってきます。

労働環境を整えることはとても大切なことだし、その一環として最近、



い・せいぞう
1964年6月生まれ。広島大学卒。1994年2月に株式会社パック・エックスを設立。現・代表取締役。関連会社は株式会社パック・エックスホールディングス、株式会社パック・エックスイノベーション、株式会社ビー・ワークPRO。

た。体育会系の学生を中心に企業説明会を呼び掛け、参加人数は平均5名程度でしたが、それでも当時の営業本部長、現在の韓裕社長が熱心に会社や業界の未来を語り、説明会の後も学生を居酒屋に誘って、さらに熱く丁寧に学生一人一人と向き合っていました。そうした黎明期のマルハン様の新卒採用をお手伝いさせていただきました。

それから徐々にホール企業様とのお取引が増えていきましたが、その背景には業界自体の成長もあったと思います。CR機が普及し、遊技人口のすそ野が広がり、店舗の大型化、チェーン化も進み、よりレベルの高い人材が必要でした。ホール各社の新卒採用の意識が高まり、家業から企業へと急速に変わっていききましたが、そうした時期に募集から採用、教育研修に至るまで色々なプロセスを一緒にやらせていただきました。

採用で培った経験を他の事業に水平展開

現在では採用支援に留まらず、様々な事業を展開されています。その中で、一貫している指針はどんなことでしょうか。

業界との接点が増える中で、「人」を中心としたホール様の悩みや課題を身近に聞かせていただけるようになりました。例えば、採用や教育研修の他に、組織化するための社内の人事評価制度

の構築や、社員が共感できるビジョンや企業理念の作成まで任せていただくこともありました。転職希望者とホール様をマッチングする転職支援も好評です。

採用が上手くいけば、今度は営業促進も依頼されるようになり、一時は景品の納入やイベントの企画、POPや機種説明の内製化サービスなども展開しました。2007年の5号機問題の頃には、ホール様の資産と負債のバランスに危機感が出始めたことで、財務面のサポートやコンサルティングなども始めました。遊技台を活用した資金調達サービスもこれから運用したいと考えています。

こうした時代の変化やホール様の状況に合わせて、必要とされるモノを提案しているわけですが、我々が一貫していることは「業界と共に」という想いです。モノを渡して終わりではなく、人事や財務、その他の事業もホール様と一緒に歩んでいくスタイルを創業時から実施しています。

採用に関する書籍も出されました。『東大を卒業した僕がパチンコ屋に就職した理由(中経出版)』の発刊は、収益というよりも言わば学生に対して業界全体の認知やイメージを上げてもらうための取り組みです。これからも遊技をされない人に向けて、業界をアピールする施策なども考えていきたいと思っています。